



令和4(2022)年度
事業報告書



「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

学校法人金井学園

【法人の概要】 1



I・法人の概要

1. 建学の精神	3
2. 学校法人の沿革	4
3. 設置する学校・学部・学科等	7
4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況	9
5. 役員（理事・監事）の概要	10
6. 評議員の概要	11
7. 学校長	12
8. 教職員の概要	12
9. 組織図	13

II・事業の概要

1. 第3次中期計画	14
2. 福井工業大学	15
3. 福井工業大学附属福井高等学校・福井中学校	20
4. 福井県医療福祉専門学校	22
5. 福井製菓専門学校	23
6. 法人本部	24
7. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	26
8. 施設等の状況	27

III・財務の概要

1. 決算の概要	
1-1. 資金収支計算書	28
1-2. 事業活動収支計算書	29
1-3. 貸借対照表	30
2. 主な財務比率比較	
2-1. 主な財務比率比較	31
3. その他	
3-1. 有価証券の状況	32
3-2. 借入金の状況	32
3-3. 学校債の状況	32
3-4. 寄付金の状況	33
3-5. 補助金の状況	33
3-6. 収益事業の状況	34
3-7. 関連事業者との取引の状況	34
4. 来年度以降の展望	34



1. 建学の精神

金井 学園
建学の精神

悠久なる日本民族の歴史と伝統とに
根ざした愛国心を培い、節義を重んずる
人格の育成、科学技術の研鑽に努め、
以て人類社会の福祉に貢献する。



2. 法人の沿革 (令和4年5月1日現在)

昭和 25 年 4 月	福井市豊島上町 93 番地に中学校卒業を入学資格とする (2 年制) と専科 (夜間 1 年制) を有する北陸電気専門学校を創設
27 年 4 月	本校を 3 年制とし、高校教科書による単位修得に改める
27 年 11 月	生徒数の増加及び実験室等の整備のため福井市明里町 29 番地に移転
33 年 4 月	建設科を増科
34 年 2 月	学校法人金井学園創立認可
34 年 4 月	福井実業高等学校として発足 学校教育法に規定する工業課程の高等学校として電気科・建設科を置く
34 年 11 月	福井市東明里町 20 番地に校舎新築移転
35 年 4 月	福井実業高等学校に生活科学科 (女子) 増科
36 年 4 月	福井実業高等学校に電気通信科増科
36 年 11 月	福井実業高等学校同科廃止
37 年 4 月	福井実業高等学校に電子科・機械科増科
37 年 12 月	福井短期大学設置認可
38 年 4 月	福井短期大学 (電気科) 開学
39 年 4 月	福井短期大学に機械・家政科増科 教職課程設置
40 年 2 月	福井工業大学設置認可
40 年 4 月	福井工業大学 (電気工学科・機械工学科) 開学
40 年 4 月	福井短期大学家政科を独立して、福井女子短期大学と改称
40 年 4 月	福井実業高等学校の生活学科を普通科 (女子) と改称
40 年 10 月	福井実業高等学校を福井高等学校と改称
41 年 4 月	福井工業大学に建設工学科増科 教職課程設置
41 年 4 月	福井女子短期大学家政科を家政・食物栄養に専攻分離
41 年 4 月	福井高等学校に普通科 (男子) 増科
42 年 4 月	福井高等学校にデザイン科を増科 電子科を電気科に統合 建築科と改称し、建築・土木の 2 コースとする
43 年 4 月	福井高等学校に衛生看護科増科
44 年 4 月	福井高等学校に自動車整備科増科 電気科にテレビコース開設
45 年 4 月	福井女子短期大学の家政専攻を家政経済専攻と改称
47 年 4 月	福井高等学校に航空機整備科を増科
48 年 4 月	福井工業大学に応用物理学科増科
52 年 8 月	福井女子短期大学廃止
53 年 2 月	福井高等学校を福井工業大学附属福井高等学校と改称



54年4月	福井工業大学応用物理学科の改称を環境安全工学科に変更
55年4月	フクイモダンデザイン専修学校設置
58年4月	福井工業大学機械工学科を機械工学専攻・電子工学専攻に専攻分離
60年4月	福井工業大学に大学院（工学研究科）設置
61年4月	福井工業大工学部期間を付した定員増(平成11年迄)
62年4月	福井工業大学に経営工学科設置
63年4月	福井工業大学附属福井高等学校に商業情報科設置
平成 元年 4月	福井工業大学附属福井中学校設置
元年 4月	別科（工学専修科）に土木工学専攻・化学計測専攻・経営情報学専攻を開設
元年 4月	福井工業大学工学研究科博士課程開設
4年 4月	福井産業デザイン専修学校の高等課程を廃止し、商経専門課程を設置
7年 12月	福井工業大学に編入学制実施
10年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に衛生看護専攻科を設置
13年 4月	福井工業大学に宇宙通信工学科設置
14年 4月	福井工業大学電気工学科を電気電子工学科に名称変更
15年 4月	福井産業デザイン専修学校を廃止
15年 7月	収益事業の認可
16年 4月	福井工業大学経営工学科を経営情報工学科へ名称変更
16年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に工業科、情報科を設置
17年 4月	福井工業大学に原子力技術応用工学科を設置
21年 4月	福井工業大学にデザイン学科を設置
22年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に特別進学科・進学科を設置
23年 4月	福井工業大学に産業ビジネス学科を設置
24年 4月	福井工業大学建築生活環境学科を設置
27年 4月	福井工業大学にスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科を設置
27年 4月	福井工業大学に環境情報学部環境・食品科学科、同経営情報学科、及び同デザイン学科を設置
27年 4月	福井工業大学工学部電気電子情報工学科を電気電子工学科へ、また同建築生活環境学科を建築土木工学科へ名称変更
30年 4月	収益事業（若狭町みさき漁村体験施設の指定管理者としての請負業）の認可
令和 2年 4月	福井工業大学環境情報学部環境・食品科学科を環境食品応用化学科へ名称変更
3年 4月	学校法人新和学園（福井県医福祉専門学校、福井製菓専門学校、福井公務員専門学校）と法人合併



4年 4月 福井県医療福祉専門学校に文化教養専門課程日本語学科を設置
4年 4月 福井公務員専門学校を廃校



3. 設置する学校・学部・学科等 (令和4年5月1日現在)



福井工業大学

Fukui University of Technology

- 工学部
 - ・電気電子工学科
 - ・機械工学科
 - ・建築土木工学科
 - ・原子力技術応用工学科
- 環境情報学部
 - ・環境食品応用化学科
 - ・経営情報学科
 - ・デザイン学科
- スポーツ健康科学部
 - ・スポーツ健康科学科
- 大学院
 - ・応用理工学専攻 (博士前期)
 - ・社会システム学専攻 (博士前期)
 - ・応用理工学専攻 (博士後期)
 - ・社会システム学専攻 (博士後期)



福井キャンパス



あわらキャンパス



福井工業大学附属 福井高等学校

Fukui Senior High School

- 特別進学科
- 進学科
- 衛生看護科
- 衛生看護専攻科



福井工業大学附属 福井中学校

Fukui Junior High School





福井県医療福祉専門学校 Fukui Medical Welfare College

- こども・介護学科
- 医療事務学科
- 日本語学科



福井製菓専門学校 Fukui Confectionery College

- 製菓衛生師科





4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況

4-1. 福井工業大学・大学院 (令和4年5月1日現在)

(単位：人)

学部	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
工学部	機械工学科	80	72	346	
	電気電子工学科	80	74	341	
	原子力技術応用工学科	20	18	109	
	建築土木工学科	70	86	331	
	計	250	250	1,127	
環境情報学部	デザイン学科	50	44	233	
	環境食品応用化学科	40	27	143	
	経営情報学科	90	109	392	
	計	180	180	768	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	70	75	312	
	計	70	75	312	
	合計	500	505	2,207	
工学研究科(博士課程前期)	応用理工学専攻	17	9	13	
	社会システム学専攻	8	7	12	
	計	25	16	25	
工学研究科(博士課程後期)	応用理工学専攻	4	1	5	
	社会システム学専攻	2	5	15	
	計	6	6	20	
	合計	31	22	45	

4-2. 福井工業大学附属福井高等学校・衛生看護専攻科 (令和4年5月1日現在)

課程	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	特別進学科	120	131	337	
	進学科	360	331	1,037	
	衛生看護科	40	49	123	
	合計	520	511	1,497	
	衛生看護専攻科	40	37	77	
	合計	40	37	77	

4-3. 福井工業大学附属福井中学校 (令和4年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	80	63	218	

4-4. 福井県医療福祉専門学校 (令和4年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
社会福祉専門課程	100	29	67	
商業実務専門課程	40	25	25	
文化教養専門課程	20	3	3	
合計	160	57	95	

4-5. 福井製菓専門学校 (令和4年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
衛生専門課程	20	16	24	

4-6. 学生・生徒総計 (令和4年5月1日現在)

	入学定員数	入学者数	現員数
学生・生徒総数	1,351	1,214	4,154



5. 役員(理事・監事)の概要 (令和5年3月31日現在)

定員数 理事 10名 監事 2名

役職名	氏名	現職	常勤 非常勤	選任条項	摘要
理事	金井 兼	理事長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成4年12月理事就任 平成4年12月理事長就任
理事	松浦 悦郎	常務理事 法人本部経営企画部長	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成25年4月理事就任 平成27年4月常務理事就任
理事	掛下 知行	福井工業大学 学長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成30年4月理事就任 平成30年4月学長就任
理事	佐々木 栄秀	附属福井高等学校・中学校 校長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成31年4月理事就任 令和2年4月附属高校・ 福井中学校校長就任
理事	池田 岳史	福井工業大学 副学長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成31年4月理事就任 平成29年4月副学長就任
理事	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和4年1月理事就任
理事	井上 毅	弁護士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成25年7月理事就任
理事	渡辺 雅之	税理士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和2年4月理事就任
理事	道内 由佳里	法人本部 秘書室長	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成28年4月理事就任 平成28年4月秘書室長就任
理事	藤井 貴広	附属福井高等学校 教頭	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	令和2年4月理事就任 平成31年4月附属高校教頭就任
監事	吉田 五衛	無職	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任
監事	野村 孟弘	会計士	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任



6. 評議員の概要 (令和5年3月31日現在)

定員数 21名

役職名	氏名	現職	選任条項	上段: 就任年月日 下段: 重任年月日
評議員(学内)	金井 兼	理事長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成2年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学内)	松浦 悦郎	常務理事 法人本部経営企画部長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成2年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学内)	掛下 知行	福井工業大学 学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成30年4月1日 令和4年4月1日
評議員(学内)	佐々木 栄秀	附属福井高等学校・ 福井中学校校長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日 令和4年4月1日
評議員(学内)	池田 岳史	福井工業大学 副学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学外)	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和4年1月24日 令和4年8月8日
評議員(学外)	井上 毅	弁護士	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成25年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学外)	渡辺 雅之	税理士	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和2年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	道内 由佳里	法人本部 秘書室長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成28年4月5日 令和4年8月8日
評議員(学内)	藤井 貴広	附属福井高等学校 教頭	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和2年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	渡邊 徹也	附属福井高等学校・ 福井中学校中高事務局長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成31年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	山田 典孝	福井工業大学事務局 入試広報課長	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和4年8月8日
評議員(学内)	宮本 由佳子	法人本部 総務部長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成30年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	吉村 喜信	福井ホースパーク 苑長 福井工業大学非常勤講師	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成13年11月26日 令和4年8月8日
評議員(学外)	山田 健治	社会福祉法人 やしろ中央会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第三号	昭和49年4月23日 令和4年8月8日
評議員(学内)	金井 兼信	法人本部経営企画部 経営企画課長	寄附行為第二十条 第一項第三号	令和4年8月8日
評議員(学外)	木村 洋子	社会福祉法人 坂井福祉会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和4年8月8日
評議員(学外)	渡邊 忠造	税理士	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成20年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学外)	坪川 哲也	株式会社大和印刷所 代表取締役社長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和4年8月8日
評議員(学外)	藤井 求	無職	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成11年7月9日 令和4年8月8日
評議員(学外)	高橋 正恭	(株)C&B 代表取締役	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成27年4月1日 令和4年8月8日



7. 学校長 (令和5年3月現在)

学校名	役職名	氏名
福井工業大学	学長	掛下 知行
福井工業大学附属福井高等学校	校長	佐々木 栄秀
福井工業大学附属福井中学校		
福井県医療福祉専門学校	校長	栗原 美幸
福井製菓専門学校	校長	藤井 幸子

8. 教職員の概要 (令和4年5月1日現在)

(単位：人)

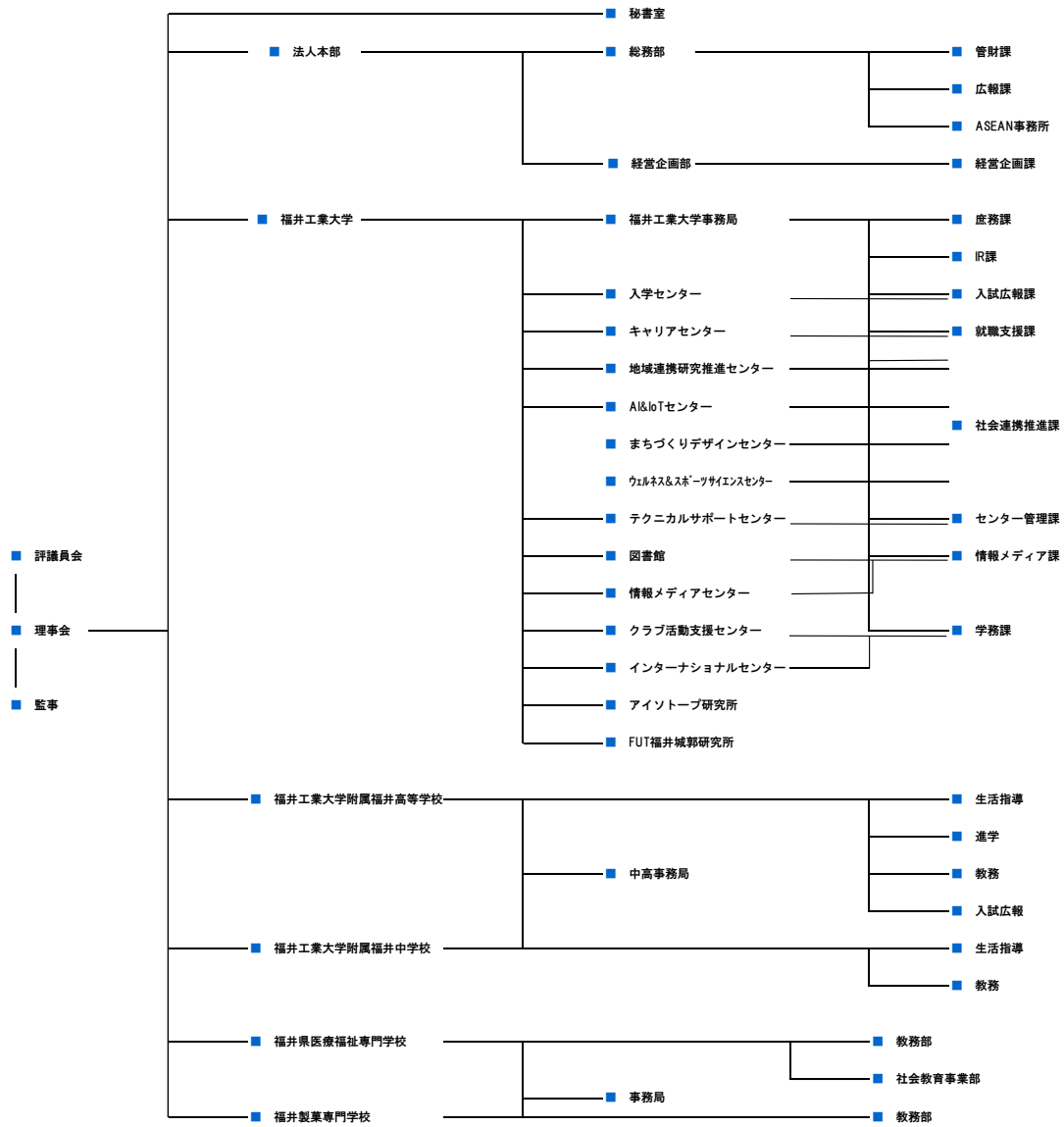
	教員		職員	
	本務	兼務	本務	兼務
法人本部			6	9
福井工業大学	100	87	80	10
福井工業大学附属福井高等学校	69	112	25	6
福井工業大学附属福井中学校	17	15	4	0
福井県医療福祉専門学校	14	49	6	2
福井製菓学校	4	13	1	0
合計	204	276	122	27

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。





9. 組織図 (令和5年3月31日現在)



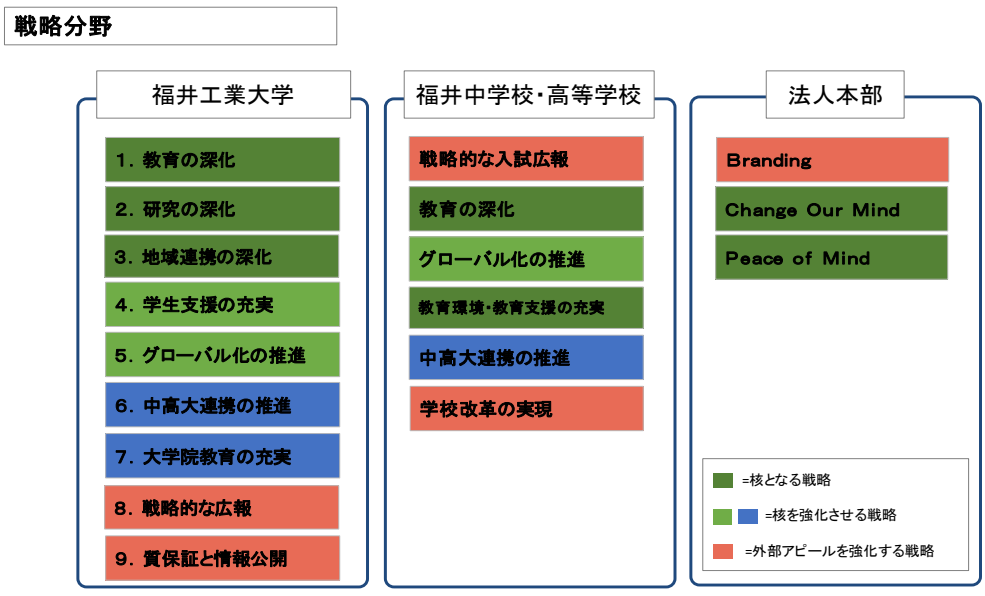
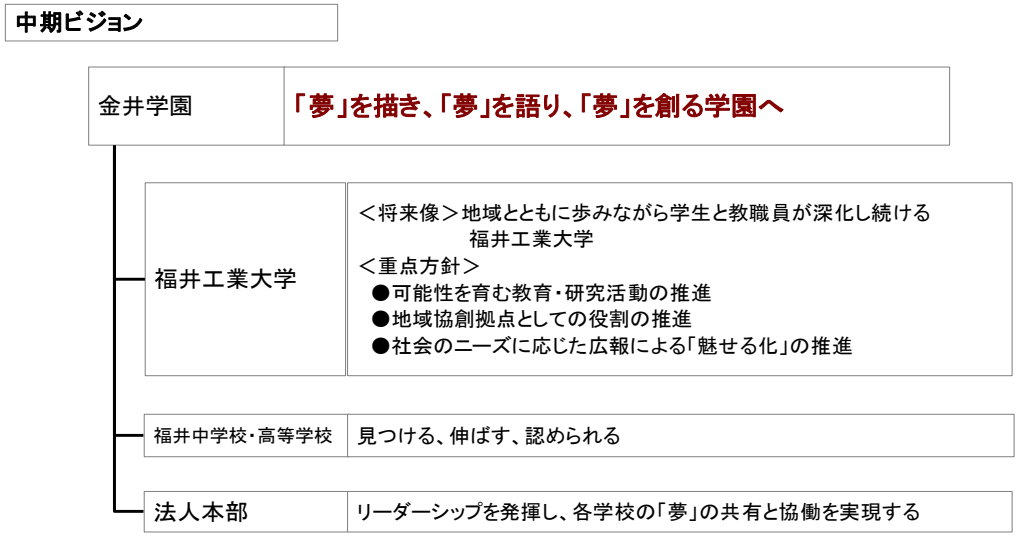


1. 第3次中期計画

第3次中期計画（2019年度～2024年度）

第2次中期経営計画に続く第3次中期計画「“夢”描き “夢”を語り “夢”を創る学園へ」を中期ビジョンとして掲げ実行します。

以下の【戦略分野】からなり、各学校の行動目標は、次のとおりです。





2. 福井工業大学

教育の深化

1. 学生の主体的な学びの促進と展開

(1) ハイブリット型授業の強化

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を進め、原則対面で授業を実施しました。対面授業・オンライン授業にかかわらず、令和元年度に導入した学習管理システム「manaba」及び令和2年度に導入した双方向型テレビ会議システム「Microsoft Teams」を学習ツールや授業運営ツールについても各教員が最大限に活用し、コンテンツの充実を図り、授業を実施しました。

(2) アクティブラーニング型授業の推進

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学生の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法への展開を全学的・組織的に進めています。学生が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ります。実験・実習の他、グループワークやディスカッションなど令和4年度のアクティブラーニング型授業の割合は76.3%となり、前年度比4.6%の増加となりました。

2. 更なる発展に向けた取り組み

(1) 大学の発展に向けた新学部の設置

データサイエンス並びに人工知能(AI)の普及により、様々な分野でデータ(情報)の利活用が進み、モノづくりのデジタル化の多様化により、データサイエンスを基礎とする事業者や技術者の養成が必要不可欠

となっています。また、「SDGs」「情報通信技術」などといった、地域社会が求める様々な要望、課題に応える形で、「経営情報学部」の設置届出をはじめとする諸届出を文部科学省に行いました。

(2) 私立大学等改革総合支援事業の採択に向けた全学的取り組みの強化

令和3年度の私立大学等改革総合支援事業の選定結果(計3タイプ採択)を受け、令和4年度はこの事業の指針となる先進的な教育・研究などの各取組に対し、全学を挙げて全てのタイプの採択を視野に入れつつ、3つのタイプの採択維持が目標として掲げられました。各設問に対する本学の取組の検証等が実施されたうえで、全タイプの申請を行いました。その結果、本学は2年連続3つのタイプ『Society5.0』の実現に向けた特色ある教育の展開(タイプ1)、「特色ある高度な研究の展開(タイプ2)」、「地域社会の発展への貢献(タイプ3 プラットフォーム型)の採択を受けました。

研究の深化

1. 地域活性化の役割を担う研究活動の推進

令和2年度に宇宙研究推進本部を設置し、学内プロジェクトとして始動した「ふくいPHOENIX ハイパープロジェクト」を推進しています。本プロジェクトの研究活動の更なる向上を図るため、外部有識者による評価委員会を開催しました。評価委員会では「宇宙研究の発展」「地域振興の発展」「観光文化の発展」の3つの研究の責任者より研究の詳細を報告しました。令和5年度以



降の戦略や地域住民へのプロジェクト説明会の実施、新設予定の 13.5m パラボラアンテナの性能についてなど様々な意見・質問をいただき、活発な議論を行うことができました。



2. 研究活動に集中できる環境

工科大の相互の連携・協力による理工系高等教育の更なる活性化を目指した「工大サミット」に、本学は令和元年度から加盟しています。令和4年度「第5回工大サミット」(愛知工業大学)は、未来を創造する理工系人材の育成をテーマに開催され、掛下学長、池田副学長の参加に加え、工学研究科応用理工学専攻電気電子情報工学コース(芥子研究室)に所属する学生が登壇し、「解釈性のある病名推定システムの実現による地域医療への貢献を目指して」と題して、取組事例を発表しました。



3. 積極的な研究活動の発信

「未来を拓く宇宙人材育成の拠点を目指して」をテーマに工学部電気電子工学科担当の FUT 公開講座を開催しました。本学では、宇宙技術開発および宇宙産業、宇宙科学に貢献する人材の育成と地域への貢献を行うことを目的に、「ふくい PHOENIX ハイパープロジェクト」を推進しており、同プロジェクトに携わる同学科教員からの説明、

国立研究開発法人宇宙航空研究開発法人(JAXA)宇宙科学研究所准教授の富木淳史氏より「宇宙開発の現状と福井工業大学への期待」と題し現在の衛星等との通信方法や最先端のアンテナ地上局についてご紹介いただきました。



また、AI&IoT センター主催シンポジウム「AI&IoT コンソーシアム設立シンポジウム～基盤モデル・深層学習・強化学習～」を開催しました。本学と福井県との包括連携協定を締結したことを受けての県内産学官連携での最初の取り組みとなる本シンポジウムを対面・オンラインのハイブリットで開催しました。招待講演として、米国より OpenAI ChatGPT チームの Shane Gu 氏によるオンライン講演、対話研究の第一人者である名古屋大学教授の東中竜一郎氏をお招きし、講演いただきました。



地域連携の深化

1. 地域活性化の役割を担う研究活動の推進

(1) 新たな自治体との連携協定締結

本学と福井県は、包括連携に関する協定の締結を行いました。具体的な連携の取り組みは、「(1) 大学の知見を活用した研究開発」、「(2) 福井県における教育振興や人材育成に関すること」、「(3) 地域社会の活性化や産学官連携の推進に関すること」、「(4) その他」となっています。今後福井県と本学の学生・教職員の交流を通じて、福井県



の地方創生に係る様々な分野で相互に協力し、福井県の更なる持続的な発展に貢献していきます。

2. 地域を育むダイバーシティの推進

学内におけるダイバーシティ推進に対する教職員の意識の醸成を図ることを目的に、ダイバーシティ推進委員会・FD・SD 推進委員会の共催による研修会を実施しました。研修会では、インクルージョン（企業内のすべての従業員が仕事に参画する機会を持ち、それぞれの経験や能力、考え方を認め合い多様な人材を活かすこと）の考えが重要視される中、特別支援教育の分野では、インクルーシブ教育を一足先に始めており、これまでの自身の経験を踏まえその状況・課題・授業等教育における事例について解説されました。

3. 地域を牽引・地域と協創できる環境の推進

本学では、「世界と日本の未来を考えよう」を主題に各界の有識者をお招きし、第一線で活躍された豊富な経験と知識を講演いただく「未来塾」を毎年開催しています。令和4年度に開催した第27回目の未来塾講演会では、数々の金字塔を打ち立て、史上最多 45 回の優勝を誇る第一人者である宮城野親方（元横綱 白鵬）をお招きし、「夢への挑戦～弱さを受け入れた時、強さを手にできる～」をテーマにトークショー形式にて講演いただきました。その他、FUT 公開講座を 41 講座開催しました。



学生支援の充実

1. 学生の正課外活動環境の充実

第 59 回福井工業大学大学祭を地域住民の方々に開放するかたちで開催しました。今回は、本学へ訪れた方々に笑顔や元気を与えられるような存在となる祭典にしたいとの思いから「工大の祭典」をテーマに開催しました。キャンパス全体がイベント会場となっており、屋外ステージでは、e スポーツ選手権大会、ポーカフェイス・以心伝心対抗戦、金井講堂ではキャンパスアイドルライブ、トークショーを行いました。その他、学科イベント、クラブによる模擬店、若狭町・池田町物販、父兄後援会によるシューティングゲーム等を行い、2 日間延べ約 3,000 名の方々の来場となりました。



2. 主体的に活動するための学生リーダー育成プログラムの開発と運用

(1) 地域における主体的な学び

工大サミット加盟大学の学生が参加する共同PBL「広島・宮島地区の観光活性化」(担当校: 広島工業大学)が初めて実施されました。本学からは学生 4 名が参加しました。当日は、他大学の学生らとフィールドワーク、課題の洗い出しなどを行い、観光活性化への提言を、宮島の所在する広島県廿日市の職員を前に発表しました。





(2) 社会的自立に必要な責任感・思考力を身につけた人材の育成

就職率で毎年高い実績を出している本学では、学生がさらに高いレベルの就職を実現するため、CAREER LEADERS CAMP（早期就活集中講座）を実施しています。学生自身が先頭に立って就職活動をリードし、文字通り未来のリーダーになる学生を育てるための講座を毎年開講しています。2年生を対象に、早い段階で各自が希望する進路を意識した上で、思考力や自信を養い、就職活動のスタートダッシュに向けて決意を固めるためのプログラムです。令和4年度は、対面にて本学で3日間の研修を実施しました。また、タイ王国にて海外インターンシップを受け入れて頂いている福井県内企業の担当者にお越しいただき、海外で働くこと等についての講演を実施しました。

3. 個人の自立に向けたキャリア形成支援

職員の相談業務における基礎的また専門的な知識・技術の研鑽を積むために、一人あたり、年間2回以上の研修に参加しています。それにより学生支援体制を強固なものにし、多様な学生への支援策の充実を図っています。コロナ禍の中で、企業の採用活動が大きく変化していることもあり、年間行事スケジュールの内容・時期についても、学生が安心して就職活動に取り組めるよう随時見直しを図り、ガイダンスの実施等に取り組んできました。

グローバル化の推進

1. 教育・研究のグローバル化

「Koyori Project」のコンサルティングを担当するデザイン学科の教員2名と学生9

名がタイを訪問し、ランパーンラチャパット大学およびラジャマンガラ工科大学ランナー校において学生間交流を行うとともに、タイ北部ランナー地方のフィールドトリップに参加し、共同研究を行いました。



また、原子力技術応用工学科が、文部科学省の国際原子力人材育成イニシアティブ事業の一環としてオンタリオ工科大学からグレン・ハーベル教授を本学に招き、共同研究テーマである小型モジュール炉の現状に関するセミナーを開催しました。

2. 地域・社会のグローバル化への貢献

福井県国際交流協会が主催する異文化理解促進講座に、留学生が講師役となって協力しました。あわら市にて、市内の小学5、6年生に対してイスラム教に関する授業、福井県国際交流会館において、スライドを使いながら参加した福井市民に母国（インドネシア・タイ・モンゴル）の紹介などを行いました。また、ふくい市民国際交流協会からの要請により、インドネシア人留学生が福井市内の幼稚園で園児たちと交流しました。



大学院教育の充実

令和4年度は新型コロナウイルスの感染拡大対策を行ったうえで、大学院生による研究成果発表会（ポスターセッション）を学生ロビーで開催しました。博士前期課



程・後期課程の 23 名が日頃の研究成果を発表しました。久しぶりの対面での開催で、質疑応答では活発な意見が交わされました。



戦略的な広報

1. 大学ブランド力を向上させる広報

「ふくい PHOENIX ハイパープロジェクト」や「FUT AI&IoT センター」に加え、令和 4 年 4 月に新設した「FUT まちづくりデザインセンター」と「FUT ウェルネス&スポーツサイエンスセンター」など、特徴ある研究分野や令和 5 年 4 月に開設される「経営情報学部」について、本学 HP や SNS を活用した広報活動を積極的に行いました。教育・研究活動や学生の活躍などをステークホルダーに向けて広く発信することで、大学の認知度向上およびブランド力の向上を図りました。

2. 受験者層の動向にあわせた入試広報活動の展開

令和 3 年度までのコロナ禍の経験を活かし、十分な感染防止対策を講じながら、対面によるオープンキャンパスを開催しました。また新規企画として、本学の研究内容を通じて、2050 年について高校生とディスカッションする「2050 年サミット」、女子高校生向けに本学女子在学学生・本学女子卒業生のキャリアプランを紹介し、本音ト



ークや質問ができる「つどえ！未来のふくいテクガールたち！」を実施し、多くの高校生・保護者に参加をいただきました。

質保証と情報公開

1. 内部質保証の機能向上と教育研究活動等の改善向上

(1) IR セミナーの開催

国の施策「2040 年に向けた高等教育のブランドデザイン」では、高等教育が目指すべき姿として「学修者本位の教育への転換」が示されており、その基盤として、大学における 3 つのポリシーに基づく教育・研究の質保証が求められています。また、その 3 つのポリシーを達成するために行う管理運営（教学マネジメント）の構築が求められています。これらを支援する 教学 IR 活動について、他大学に大学の現状の取組を紹介するとともに、意見交換を行うことでお互いの IR 活動の活性化を図り、大学運営への貢献を考える機会として、八戸工業大学と IR セミナーをオンラインにより開催しました。

2. 学修成果の可視化に向けた取り組み

教育改善に活かすことを目的に学修成果の可視化に関する取組みを充実させています。令和元年度より新入生を対象として実施していた外部アセスメントテスト（自己分析 WEB テスト）を令和 4 年度も継続実施しました。また、昨年度より 3 年生対象にも実施をすることで、過年度比較・経年比較が可能となりました。入学時と在学時の経年で追って学修成果を可視化することで、大学としての全学での活用と学生個人の活用を促進することができました。



3. 福井工業大学附属福井高等学校・中学校

1. 進路指導センターの学習環境と高校2号館（被服室）の自主学習教室の整備

○進路指導センターと被服室の改造により期待される効果

・生徒の学びの喚起：主体的な学びや対話的な学び、あるいは創造的な学びや協働的な学びなどのこれからの新しい時代に求められる学びの形を生徒に提供できます。

・福井中学校、高等学校の新しい学びの発信：福井中高が新しい時代に求められる学びの改革を進めていることを、外部に公開、発信できます。

・様々なイベントの実施：アクティブラーニングによる授業やセミナーが開催できるほか、探究活動プレゼンテーションの発表会や生徒会主催のワールドカフェなどにも利用が可能です。さらには視察団や海外からの訪問団などのベーススペースとしての提供も可能となります。

○DC (Dialogue Commons) について

大きな空間を作り出すために、既存の相談室の壁は撤去し、そこに可動式の仕切りを入れ4つの空間を作り出します。そして、常設のプロジェクター用スクリーンやグループ学習に必要な小型ポータブルプロジェクターを設置し、様々な用途に対応できるようにします。

<補足事項>

・階段前の廊下とPSやDCの間に自動ドアを設置する。

・既存の図書スペースに、PSとDCを分けるための透明の壁を設置し、出入り口のドアも透明とする。

・4つの空間の窓下の壁に、コンセントと有

線LANを設置する。

・様々な状況に応じた組み合わせ可能な可動式の机と椅子を設置する。



○OCC (Creative Commons) について

8角形の建物の6辺に外向きの机を設置し、内側の空間は可動式の机や仕切り板を入れることで様々な用途に対応できるようになります。また、明るくオープンなイメージとするため、出入り口の扉は透明のものを設置し、照明はLEDライトへ、壁紙は明るい白系統に変更します。

<補足事項>

・現在のカーペットは汚れも目立つため、掃除しやすく机や椅子を移動しやすいタイプ床に変更する。

・外向きの机上の壁面にコンセント及びUSBポートを設置する。

・有線LANを一箇所設置する。

・グループ学習に必要な小型ポータブルプロジェクターを数台設置する。





2. 生徒のニーズに対応した学習環境

「ICTを活用する」から「ICTで高める」へ

① 総合的な探究の時間の充実

令和4年度は生徒が主体的に探究することを目的とし、「(株)アフレルによるSDGs研究」「(株)リクルートが主催する新規事業プランコンテストへの参加」など7つのコースを準備し、1年間を通して取り組みました。「(株)リクルート主催の新規事業プランコンテスト」は、全国から6,000名を超える生徒が参加しており、5名だけがファイナリストに選ばれます。本校からも1名がファイナリストに選出され、東京で最終プレゼンを行いました。全国大会につながる探究活動を今後も積極的に行い、生徒たちの進路実現につなげていきます。

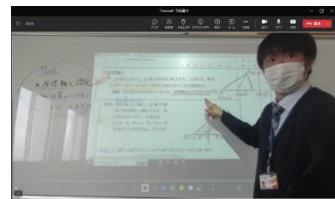
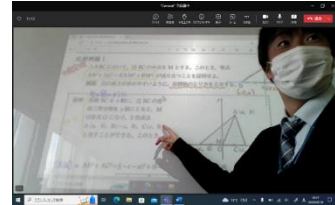


② 全クラス、高性能リモートカメラ (MeetUp) の導入

リモート授業に対応できるようになったものの、タブレットからの配信ではカメラに映る幅が狭いため、ホワイトボードに書き込めるスペースが限られ、教室で授業を受けている生徒からは不評であり、授業担当者からも、授業がやりづらいという声がありました。また、タブレットに近づかないと音声も聞き取りづらく、生徒・保護者からも改善を求める声があがりました。

MeetUpではホワイトボードをすべて映し出すことができ、画質が良いため、リモートの画面を拡大してもきれいに文字を識

別することができます。また、移動しながら話をしても、音声をクリアに届けてくれます。これにより、一部の生徒が自宅からのリモートを余儀なくされても、対面と同等の授業を受けることができ、また教師側もリモートの生徒がいても書くスペースを制限することなく、通常通りの授業を実施することができるようになりました。



(上)：タブレットのカメラ

(下)：MeetUpのカメラ

3. 長期留学制度の検討

令和4年度には、日本の高校に在籍しながら海外の高校の一定の単位を修得し、日本と海外の高校の両方の卒業資格を得ることで、海外大学への進学を可能にする、デュアルディプロマプログラムを実施するために、JAAC日米学術センターを運営する、株式会社アイベスコポーレーションとの覚書の締結を実施しました。デュアルディプロマプログラムの周知を図るため、中学生を対象の説明会や、デザイン分野生徒によるポスターの作成なども行いました。

今後、海外での活躍を希望する生徒に、その生徒に合ったプログラムを提案できるよう、検討していきます。





4. 福井県医療福祉専門学校

1. 教育方法の充実

○社会は複雑化、多様化し、一つの分野だけで課題を解決するのは難しくなっています。専門職として力を付けていくために各専門家に特別講義を依頼し、学生が興味を持つ授業の展開を試みました。(吉本興業連携授業「天才ピアニスト」によるコミュニケーション術・自分の伝えたいことを端的に文字で表現する福井新聞 NBI 講座・最新式福祉用具の見学・当事者による講義等)

○介護福祉士国家試験合格率の向上

不合格でも5年間介護福祉士として働くことができる経過措置終了年度が迫っています。令和3年の学生の取り組みが遅く、特に留学生の試験に対する意識が低いという課題を受け、アプリの活用、模擬試験を増やし試験の準備を早くから始めました。その結果、令和4年度は以下のような結果となり、令和3年度より10%増、また全国平均を大きく上回りました。

表1 国家試験 合格率	本校(新卒のみ)		全国(新卒のみ)	
	日本人	留学生	日本人	留学生
令和3年	100%	45%		38%
令和4年	94.1%	83.3%	75.6%	49.7%

2. 留学生の日本語能力と充実した生活支援の構築

○以前から計画されていた留学生寮が完備されました。冷蔵庫、洗濯機、IHコンロ、机椅などの生活必需品も整備されています。



○留学生との交流と日本文化への理解

日本の四季折々に合わせた行事(浴衣着付け、習字、お菓子作り等)を開催しました。また、日本語学科学生は松本校舎で学んでおり、普段日本人学生との交流が少ないです。日本語能力向上、学生同士の交流を図るため、医事科・こども介護学科学生と交流を深めました。



日本文化体験

3. 学生支援の充実

コース増加に伴い教室を増やしたため学生の集うスペースがなくなりました。学生同士が語りあい、教員とも話やすく憩いとなるスペースとして、7月22日、エントランスから1F全体が見渡せる明るいコミュニティスペースが完成しました。



学生が休み時間に集ったり、レポートや授業でわからないところを教員に質問したり、様々なシーンで大変活用されています。

4. 地域貢献

○学生のボランティア意識は高く、専各連フェスタ、障がい



者スポーツ大会等のボランティア活動等に自ら進んで申し込むなど、地域貢献に対して高く評価されています。



5. 福井製菓専門学校

1. 教育方法・教育体制の充実

○世界に通用する技術習得

本校のブランドプロミス「世界に通用する製菓技術の習得」を実現すべく、令和3年に引き続き、世界で活躍する青木定治先生、パリスト部門で世界チャンピオンの深山先生、ドリンク部門の第一人者片倉先生を特別講師として招き、学生の技術指導にあたっていただきました。世界でトップクラスの技術を目の当たりにして、学生達はその技術の高さや仕事のすすめ方に刺激を受けていました。



12/19 青木定治先生



7/21 深山晋作先生

○製菓技術コンクール県大会に出場し、金・銀・銅賞を受賞しました。受賞作品の搬入及び見学を兼ねて東京全国大会に学生全員が参加し、全国レベルの技術を学びました。



金賞	2年	山口	順子
銀賞	1年	西川	奈七実
銅賞	2年	金井	汐音
銅賞	1年	栗塚	青空

2. 学習環境・支援の充実

実習室が増設され2教室になったことで2学年同時に実習も行えるようになり、授業がスムーズに進むようになりました。また、授業が無い時、自主練習も行えるようにな

り、より技術の習得できる環境が整いました。それに伴い洗い場の増設や容量の大きいオープンも設置され、窓際にはカフェ形式のスペースも作られ、内部環境も充実しました。



○学習支援として、本年度から特別講師、青木定治先生の東京の店(パティスリー・サダハル・アオキ)に2年生2名が選考され、インターンシップが実施され高い技術を学びました。



3. 本校のオリジナル商品への推進

吉本興業コラボ企画に「福井県産物を使ったオリジナル商品の開発」というテーマで参画し、実施しました。6チームに分かれ福井の店舗を見学する等準備を重ね、独自の菓子を考案しました。その後、「よしもと杯」と称して予選で選ばれた3チームが決勝に進みました。決勝戦に参加して下さった父兄、高校の教員等の来場者に、考案したお菓子のプレゼンテーションを行い、福井で活躍する講師の審査を受けました。様々な方からの講評、自分達の考案したお菓子のコンセプトのプレゼン、それを食した方達の様子までの一連の過程を通し学んだ事も多く、貴重な体験となりました。





6. 法人本部

1. 吉本興業との包括連携協定に基づいた各学校の魅力発信

令和4年5月23日に吉本興業株式会社と本学園は包括連携協定を締結しました。この協定に基づき、令和4年度はBSよしもと「Cheeky's Go Go!〜行く・見る・味わう・



楽しいニッポン〜」内で「ロングコートダディの つるつるいっぱい学園」（毎週金曜日 16:30 頃から 10 分間コーナー）を放送。YouTube 吉本興業チャンネル内「FUKUI MIRAI LABO」を配信し各学校の生徒・学生・教員の取組みや活動を発信しました。また、令和4年10月15日には福井テレビ特別番組「FUKUI MIRAI LABO」を放送。福井県内に中・高・専・大のそれぞれの魅力を発信することができました。

2. 「夢」をテーマにした Instagram の開設

学園全体として一体感のある戦略的な広報手段の一つとして、「夢」をテーマにして Instagram を開設しました。学生、生徒、教職員の「夢」を紹介する事で、中学校・高等学校・専門学校・大学で構成される本学園の独自の魅力を伝えることが期待されます。また各学校で運営している SNS の発信頻度を上げるため、共同投稿の積極的な活動を進めると共に、SNS 担当者の発信力強化を目的とした研修会を



企画・実施しました。

3. 「コミュニケーション研修」の実施

中期計画に掲げる“相互理解”、“組織活性化”を実現すべく、ANA ビジネスソリューション株式会社の長田三女氏を講師にお招きし、令和4年8月23日～25日の三日間にわたって、職員を対象としたコミュニケーション研修を実施しました。（参加者：一般職・管理職 計79名）

性格検査「TEG 検査」によるエコグラム作成を行い、自身の性格傾向を客観視することで、自己理解だけでなく、自分と他者は「同じでない」という他者理解にもつながるという内容でした。また、自分も相手も大事にしたコミュニケーション「アサーション」のスキルを実践するグループワークやロールプレイングも行われ、参加者は、相手の意見を尊重しながら、自分の意見も伝える難しさを実感していました。



4. インターンシップの実施

令和4年度も夏季と冬季にインターンシップを実施しました。5日間の日程で行った夏季のインターンシップには9名のインターン生が参加しました。テーマは「金井学園職員×SDGs＝最も魅力的な学園になるための新事業立案」とし、SDGs 17 の目標をヒントに金井学園の職員として実現できる事業及び内容についてグループワークを



中心に行いました。研修成果発表会では、将来を見据えた中長期的視点からさまざまなアイデアが提案され、現役職員にとっても新たな発見や気づきを得る機会となりました。冬季のインターンシップには11名が参加しました。2部構成のプログラムで、第1部はオンライン、第2部は対面形式にて実施しました。第1部では学校職員の職業理解を目的にガイダンスや座談会中心の内容とし、第2部では各部署での実務的な業務体験やグループワークに重点を置き、金井学園職員として働く魅力を伝える内容としました。

5. アフターコロナを見据えた海外交流活動の強化

新型コロナウイルス対策も段階的に緩和され、社会生活においても対面での活動が徐々に再開されてきたこともあり、停止していた海外交流活動の再開とアフターコロナを見据えた活動を行いました。



令和4年6月24日には大学の協定校であるワラヤアロンコンラチャパット大学の新学長就任に伴う協定書調印式、同8月19日には海外インターンシップ参加学生が、ワラヤアロンコンラチャパット大学を訪問し交流会を実施しました。

高校姉妹校については、令和4年7月にワットラジャオロス高校、シーナカリンウィロート大学附属プラサミット高校を訪問し日本語アシスタント受入れについて協議を行い、3年振りにシーナカリンウィロート大学附属プラサミット高校での日本語ア

シスタントが実現しました。プルークパンヤ高校、ワットラジャオロス高校とは、今後の国際交流活動の在り方についても協議を進め、Webを活用した交流会やスポーツ交流会などについて引き続き協議を進めていくことを確認しました。

6. 施設・設備の新設・改修

学生・生徒がよりよい学習環境で学べる施設・設備を目指し、大学施設、専門学校施設の改修工事を実施しました。

・大学2号館 2-801 講義室改修工事及び同フロア EV ホールの改修



・大学2号館 2-602

講義室の机・椅子入替、内装リニューアル
・医療福祉専門学校高木校舎 学生ホールの設置

・製菓専門学校 実習室を新設

・高校 進学指導センター改修



・中学校・高等学校校舎 全てLED化

7. 第4次中期計画キックオフに向けた取り組み

令和6年度から第4次中期計画がスタートします。令和4年度は第4次中期計画策定委員会を設置し、そのキックオフに向けた取り組みをスタートさせました。第3次中期計画と同様、ボトムアップ形式にて策定を行っており、策定委員会にて策定された中期ビジョン、戦略分野は理事会の承認を経て学内に周知される予定です。



7. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

【法人本部】

- ・吉本興業株式会社との包括連携協定の締結
- ・大学2号館2-801講義室改修工事
- ・大学2号館2-602講義室内装リニューアル

【福井工業大学】

- ・福井県との包括連携協定の締結
- ・「経営情報学部」の設置届出を文部科学省に提出
- ・「FUT まちづくりデザインセンター」「FUT ウェルネス&スポーツサイエンスセンター」設置
- ・私立大学等改革総合支援事業において2年連続計3タイプの採択を受ける

【福井高等学校・福井中学校】

- ・全クラスに高性能リモートカメラ (MeetUp) を導入
- ・株式会社アイベスコレーションとの覚書締結
- ・高等学校・中学校校舎 全てLED化
- ・高等学校進学指導センター、高等学校2号館被覆室改修

【福井県医療福祉専門学校】

- ・介護福祉士国家試験合格率 前年度より10%増、全国平均を大きく上回る
- ・留学生寮の完備
- ・高木校舎 学生ホール設置

【福井製菓専門学校】

- ・世界的パティシエ 青木定治氏、バリスタ世界チャンピオン 深山晋作氏、ドリンク第一人者 片倉康博氏による技術指導
- ・青木定治氏の店舗「パティスリー・サダハル・アオキ」にて2年生2名がインターンシップ参加
- ・実習室の増設



8. 施設等の状況

主な施設設備の状況は次のとおりです。

所在地	施設等	面積等 (うち、所有地)	帳簿価格 (千円)	概要
福井県福井市 (福井キャンパス)	校地	72,389㎡	2,570,067	大学、高校、中学及び法人本部が利用している
	校舎等	78,316㎡	24,883,963	
福井県福井市 (角折校地)	校地	15827㎡ (13,020㎡)	243,476	クラブ活動に利用している
	校舎等	1878㎡	60,146	
福井県あわら市 (芦原キャンパス)	校地	159,387㎡ (105,603㎡)	1,138,688	大学の学部の一部とクラブ活動に利用している
	校舎等	10,511㎡	1,351,729	
福井県吉田郡 永平寺町	校地	121,085㎡	1,392,939	大学および高校のグラウンドとして利用している
	校舎等	3,786㎡	85,656	
福井県福井市 (高木校舎)	校地	1,879㎡	借用地	福井県医療福祉専門学校及び福井製菓専門学校の一部が利用している
	校舎等	1,883㎡	152,747	
福井県福井市 (松本校舎)	校地	1,222㎡	83,228	福井県医療福祉専門学校及び福井製菓専門学校が利用している
	校舎等	1,926	51,443	
福井県福井市 (成和校舎)	校地	594㎡	借用委	福井県医療福祉専門学校が利用している
	校舎等	504㎡	借用物件	
福井県坂井市 (第三体育館)	校地	1,049㎡	3,254	福井県医療福祉専門学校及び福井製菓専門学校が利用している
	校舎等	815㎡	5,629	

(令和5年3月31日現在)

(令和4年度 実績)

- ・カール・マイヤーグラウンド室内練習場等設置工事 (令和4年9月完成)
- ・大学2号館8階2-801大講義室及びEVホール改修工事 (令和4年9月完成)
- ・福井市高木中央3丁目建物購入 (令和4年8月購入)
- ・福井工業大学附属福井高等学校進学指導センター改修工事 (令和5年3月完成)

(令和5年度 事業)

- ・中高校舎女子トイレ増設工事 (令和5年4月予定)
- ・大学1号館トイレ改修工事 (令和5年6月予定)
- ・学園レストラン食器洗浄機入替工事 (令和5年8月予定)
- ・パラポラアンテナ整備計画 (令和5年9月予定)
- ・パウダールーム設置工事 (令和6年3月予定)

○ 耐震化率	97.76%
-大学	100.00%
-中高	97.13%
-専門学校	79.42%



1. 決算の概要

1-1. 資金収支計算書

【概要】

資金収支の規模は、前年度比 1,631 百万円減の 14,791 百万円となりました。

まず、収入の部については、主たる収入である学生生徒等納付金収入において、前年度比 75 百万円減の 3,771 百万円となりました。また、補助金収入では、前年度比 117 百万円増の 1,260 百万円となりました。一方で、その他の収入は、未収入金収入、立替金回収、特定資産からの繰入収入などが前年度の 7,233 百万円に対し、今年

度は 6,409 百万円となりました。

支出の部については、教育研究経費支出では、全体で前年度比 226 百万円増の 1,966 百万円となりました。また、今年度は、カールマイヤーグラウンド室内練習場新築工事等を行ったことから、施設関係支出は 1,643 百万円となりました。なお、設備関係支出は前年度比 242 百万円減の 399 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

収入の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	3,701,001	3,742,829	3,734,450	3,845,330	3,770,736
手数料収入	55,899	74,923	60,618	44,819	45,285
寄付金収入	158,984	94,849	90,829	184,906	112,347
補助金収入	1,024,248	1,005,655	1,071,471	1,143,426	1,260,092
資産売却収入	14,030	303,400	1,291	1,162	760
付随事業・収益事業収入	48,631	64,174	46,697	50,696	96,746
受取利息・配当金収入	70,850	105,052	105,804	183,987	170,401
雑収入	80,580	84,492	113,042	106,168	91,516
借入金等収入	0	0	0	2,000,000	0
前受金収入	584,893	481,868	430,625	480,410	454,255
その他の収入	9,560,747	8,488,114	7,885,748	7,233,462	6,409,406
資金収入調整勘定	△ 737,434	△ 772,125	△ 682,381	△ 783,618	△ 637,422
前年度繰越支払資金	2,163,752	1,202,034	1,581,160	1,930,927	3,106,788
収入の部合計	16,726,182	14,875,265	14,439,354	16,421,675	14,790,909

支出の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	2,445,834	2,474,605	2,502,254	2,677,032	2,796,917
教育研究経費支出	1,746,476	1,622,533	1,583,513	1,739,954	1,965,812
管理経費支出	623,047	611,429	614,771	655,193	813,114
借入金等利息支出	37	0	0	2,635	5,581
借入金等返済支出	6,110	0	0	95,200	285,600
施設関係支出	944,286	245,927	269,593	1,023,206	1,643,012
設備関係支出	251,874	311,351	333,758	640,380	398,818
資産運用支出	7,450,462	6,252,351	5,753,202	5,253,183	2,551,703
その他の支出	2,454,006	2,053,850	1,824,503	2,111,623	2,473,160
資金支出調整勘定	△ 397,982	△ 277,941	△ 373,166	△ 793,517	△ 653,091
翌年度繰越支払資金	1,202,034	1,581,160	1,930,927	3,016,788	2,510,282
支出の部合計	16,726,182	14,875,265	14,439,354	16,421,675	14,790,909



1-2. 事業活動収支計算書

【概要】

設置する大学および高等学校における定員の充足、ならびに学園全体での経費削減に努めてはおりますが、教育活動収支差額の前年度比 409 百万円増、教育活動外収支差額の前年度比 20 百万円減、よって経常収支差額は前年度比 429 百万円増（△1,280 百万円）となりました。

また、特別収支差額は、677 百万円減の 50 百万円の計上となりました。よって、

基本金組入前当年度収支差額は、前年度比 1,106 百万円増の△1,230 百万円、当年度収支差額は前年度比 797 百万円増の 2,856 百万円の支出超過を計上し、翌年度繰越収支差額は 15,869 百万円の支出超過となりました。

事業活動収入計は前年度比 595 百万円減少となりました。

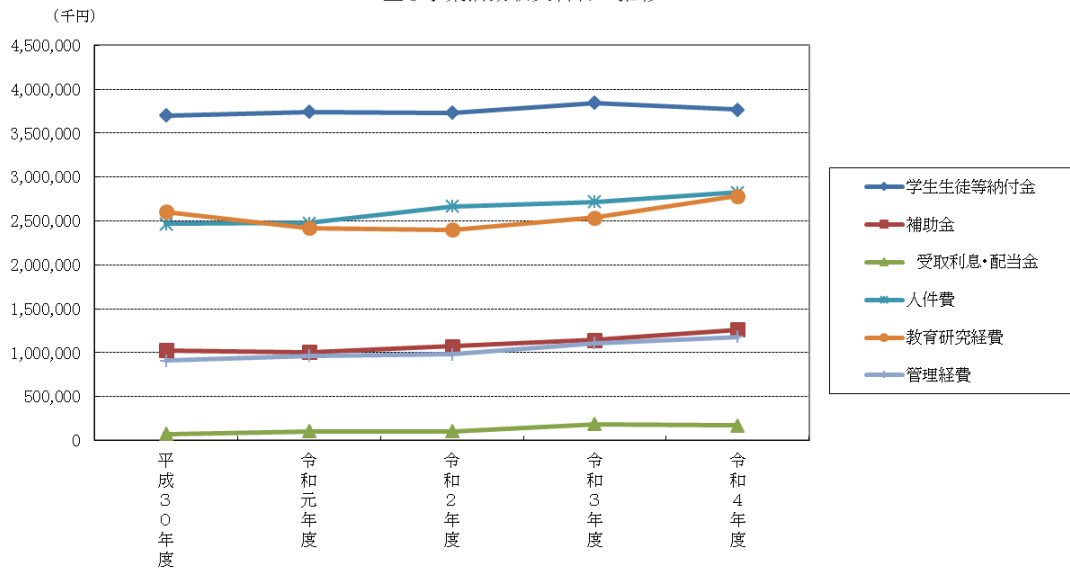
(単位：千円)

【経年比較表】

科目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,701,001	3,742,829	3,734,450	3,845,330	3,770,736	
	手数料	55,899	74,922	60,618	44,819	45,285	
	寄付金	158,984	94,849	90,829	185,106	112,686	
	経常費等補助金	1,010,630	955,866	1,037,843	1,098,749	1,225,370	
	付随事業収入	48,789	63,754	46,459	50,561	96,426	
	雑収入	90,496	88,992	129,182	105,573	100,726	
	教育活動収入 計	5,065,798	5,021,215	5,099,381	5,330,138	5,351,229	
	事業活動支出の部	人件費	2,464,680	2,478,838	2,668,582	2,717,251	2,824,316
		教育研究経費	2,605,343	2,420,844	2,399,528	2,536,939	2,784,343
		管理経費	906,596	964,233	979,086	1,108,200	1,178,269
徴収不能額等		17,419	9,742	0	578	5,667	
教育活動支出 計		5,994,038	5,873,658	6,047,197	6,362,969	6,792,595	
教育活動収支差額		△ 928,240	△ 852,443	△ 947,815	△ 1,032,830	△ 1,441,366	
科目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	70,850	105,052	105,804	183,987	170,401	
	その他の教育活動外収入	0	400	168	595	0	
	教育活動外収入 計	70,850	105,452	105,972	184,582	170,401	
	教育活動外支出の部	借入金等利息	37	0	0	2,635	5,581
		その他の教育活動外支出	101	0	1	0	3,153
		教育活動外支出 計	138	0	1	2,635	8,734
教育活動外収支差額		70,713	105,452	105,971	181,947	161,667	
経常収支差額		△ 857,528	△ 746,991	△ 841,845	△ 850,884	△ 1,279,699	
科目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
特別収支	資産売却差額	27,064	11,549	141,197	372,211	92,240	
	その他の特別収入	26,085	64,436	47,119	370,889	49,071	
	特別収入 計	53,149	75,985	188,316	743,100	141,311	
	資産処分差額	305,986	6,549	11,708	14,826	91,616	
	その他の特別支出	0	431	0	1,624	0	
	特別支出 計	305,986	6,980	11,708	16,450	91,616	
特別収支差額		△ 252,837	69,005	176,607	726,649	49,695	
基本金組入前当年度収支差額		△ 1,110,364	△ 677,985	△ 665,237	△ 124,235	△ 1,230,005	
基本金組入額合計		△ 583,118	△ 297,420	△ 575,129	△ 1,935,340	△ 1,626,282	
当年度収支差額		△ 1,693,482	△ 975,405	△ 1,240,366	△ 2,059,575	△ 2,856,297	



主な事業活動収支科目の推移



1-3. 貸借対照表

【概要】

本年度の資産総額は、前年度比 1,661 百万円減の 33,622 百万円となりました。

資産の部においては、年次計画による建物、構築物の改修等を実施しました。

負債の部においては借入金の返済のほか、未払金の減少等により、負債総額は、前年度比 431 百万円減の 4,060 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定資産	32,937,232	31,634,748	30,798,803	31,951,515	30,904,091
流動資産	1,455,578	1,807,266	2,181,694	3,332,028	2,718,013
資産の部合計	34,392,810	33,442,014	32,980,497	35,283,543	33,622,104
固定負債	999,806	985,935	1,138,206	2,828,242	2,556,913
流動負債	1,132,998	874,058	925,508	1,662,752	1,502,647
負債の部合計	2,132,804	1,859,993	2,063,714	4,490,994	4,059,560
基本金	40,997,742	41,295,163	41,870,292	43,805,632,236	45,431,914
繰越収支差額	△ 8,737,736	△ 9,713,142	△ 10,953,509	△ 13,013,084	△ 15,869,371
純資産の部合計	32,260,006	31,582,021	30,916,783	30,792,548,585	29,562,544
負債及び純資産の部合計	34,392,810	33,442,014	32,980,497	35,283,543	33,622,104



2. 主な財務比率比較

2-1. 主な財務比率比較

比 率	計算式	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	48.0%	48.4%	51.3%	49.3%	51.2%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	66.6%	66.2%	71.5%	70.7%	74.9%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	50.7%	47.2%	46.1%	46.0%	50.4%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	17.6%	18.8%	18.8%	20.1%	21.3%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-21.4%	-13.0%	-12.3%	-2.0%	-21.7%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	136.8%	119.9%	125.7%	147.6%	170.8%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	72.1%	73.0%	71.7%	69.7%	68.3%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	3.1%	1.8%	1.7%	3.0%	2.0%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	3.1%	1.9%	1.7%	3.4%	2.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	19.5%	18.4%	19.2%	17.6%	21.6%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	19.7%	18.6%	19.9%	19.9%	22.2%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	11.2%	5.7%	10.7%	30.9%	28.7%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	18.8%	19.6%	19.5%	17.7%	17.4%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-18.1%	-14.6%	-16.6%	-15.4%	-23.2%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-18.3%	-17.0%	-18.6%	-19.4%	-26.9%

- 「学校法人会計基準」に基づく事業活動収支計算書を用いて、表に示された計算式により、比率を算出しました。

※1 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

※2 経常支出 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計



3. その他

3-1. 有価証券の状況

(単位：千円)

		(令和5年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
計上額が貸借対照表を超えるもの	有価証券	178,785	261,465	82,680
	減価償却引当特定資産	1,352,473	1,657,420	304,947
	施設設備拡充引当特定資産	1,484,395	1,911,561	427,166
	退職給与引当特定資産	87,682	137,360	49,678
	第3号基本金引当特定資産	500,000	531,751	31,751
	計	3,603,335	4,499,557	896,222
	(うち満期保有目的債券)			
計上額を貸借対照表を超えないもの	有価証券	211,793	186,168	△ 25,625
	減価償却引当特定資産	1,001,011	924,901	△ 76,110
	施設設備拡充引当特定資産	666,004	582,841	△ 83,163
	退職給与引当特定資産	768,423	744,046	△ 24,377
	第3号基本金引当特定資産	500,000	494,239	△ 5,761
	教育研究基金	120,660	120,024	△ 636
	計	3,267,889	3,052,219	△ 215,671
(うち満期保有目的債券)				
合計		6,871,224	7,551,776	680,552
(うち満期保有目的の債券)				
時価のない有価証券		1,910		
有価証券合計		6,873,134		

種類	(令和5年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
株式	378,570	377,396	△ 1,175
投資信託	2,482,157	2,714,544	232,387
その他	4,010,497	4,459,837	449,340
計	6,871,224	7,551,776	680,552
時価のない有価証券		1,910	
有価証券合計		6,873,134	

3-2. 借入金の状況

(令和5年3月31日現在)

借入先	借入残高	利率	借入期間	担保等
福井銀行	1,619,200千円	0.32%	7年0か月	なし

3-3. 学校債の状況 . . . なし



3-4. 寄付金の状況

○教育振興寄付金（大学：1口5万円、高等学校・中学校・専門学校：1口3万円）

令和4年度 募集実績

・大学	3,260 千円
・高等学校	3,210 千円
・中学校	520 千円
・福井県医療福祉専門学校	90 千円

○一般寄付金

・株式会社エフ・ケイ・ケイ	5,000 千円
・株式会社福井銀行	1,000 千円
・株式会社山田組	10,000 千円
・株式会社加藤ビルディング	6,000 千円
・上野電機株式会社	5,000 千円
・三谷商事株式会社	1,000 千円
・英光産業株式会社	1,000 千円
・日本中央競馬会	1,000 千円
・その他 PTA 寄付金、卒業寄付金	

3-5. 補助金の状況

【福井工業大学】

・令和4年度私立大学等経常費補助金	382,812 千円
・令和4年度授業料等減免費交付金	100,342 千円
・令和4年度 ICT 活用推進事業整備補助金	24,887 千円

【福井工業大学附属福井高等学校】

・令和4年度私立学校施設整備費補助金	2,300 千円
・令和4年度私立高等学校教育振興補助金	495,433 千円
・令和4年度私立高等学校等就学支援事業補助金	142,238 千円

【福井工業大学附属福井中学校】

・令和4年度私立中学校教育振興補助金	55,462 千円
--------------------	-----------

【福井県医療福祉専門学校・福井製菓専門学校】

・令和4年度高等教育修学支援事業補助金	4,127 千円
・令和4年度私立専修学校等教育振興補助金	3,335 千円
・令和4年度外国人介護福祉士確保推進事業補助金	17,600 千円



3-6. 収益事業の状況

収益事業として、不動産賃貸業及び福井県立馬術競技場（福井ホースパーク）及び若狭町みさき漁村体験施設（みさきち）の指定管理を行っており、その状況は以下のとおりです。

【貸借対照表】

（単位：千円）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
流動資産	306,523	337,191	388,819	405,083	147,325
固定資産	797,730	787,601	816,975	802,078	772,394
資産合計	1,104,253	1,124,792	1,205,795	1,207,160	919,720
流動負債	17,802	15,008	30,918	17,610	12,631
固定負債	1,215	840	3,700	3,700	3,700
負債合計	19,017	15,848	34,618	21,310	16,331
純資産合計	1,085,236	1,108,943	1,171,176	1,185,851	1,185,851
負債・純資産合計	1,104,253	1,124,791	1,205,795	1,207,160	1,207,160

【損益計算書】

（単位：千円）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業収入	76,573	76,970	82,976	89,527	91,815
補助金収入	0	0	0	0	0
一般管理費	79,291	71,327	73,102	76,574	82,067
営業利益	△ 2,718	5,643	9,874	12,953	9,747
営業外損益	1,122	1,622	1,463	1,721	7,791
経常利益	△ 1,596	7,265	11,337	14,674	17,538
特別損益	0	△ 75	0	0	
当期純利益	△ 1,596	7,190	11,337	14,674	17,538

3-7. 関連当事者との取引の状況

会社等の名称	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
株式会社 C&B	3,000千円	48%	不動産賃貸業務委託、人材派遣契約の締結	理事長が52%出資。委託費180百万円支払い。

4. 来年度以降の展望

第3次中期計画の4年目となった令和4年度は、財務5ヵ年計画の目標水準を達成することは叶いませんでした。累積収支の実状としても支出過多の状況が続いております。第3次中期計画の最終年度となる令和5年度は、令和4年度の状況を鑑みつつ、5ヵ年計画の達成に向けて、教育・研究への影響を心配されないよう「厳格化」

を図りながら、1つ1つの取組において、学園基本理念の下、教育環境の充実、学生・生徒へ更に質の高いサービスの提供を実現するために、収入の安定化や、支出の最適化により収支均衡を目指し、財務のさらなる改善に努めてまいります。